

## 佐賀県研究成果情報（作成 2024年2月）

[情報名] オオムギ網斑病の防除適期は出穂期である

[要約] オオムギ網斑病の防除適期は出穂期であり、これより散布時期が早くても遅くても防除効果は劣る。

[キーワード] ムギ、網斑病、薬剤防除

[担当] 佐賀県農業試験研究センター・環境農業部・病害虫・有機農業研究担当

[連絡先] 0952-45-8808・nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 麦類

[専門] 作物病害

### [背景・ねらい]

オオムギでは、葉に病斑を生じ、多発すると収量や品質の低下を招く網斑病が問題となる。近年、網斑病の初発が早まっていることから、防除を前倒しで行ったり、逆に防除作業が遅れているケースがみられている。県防除の手引きでは、本病の防除適期は出穂期から登熟期とされているが、近年の現場対応の状況に対応するため、適切な散布時期について再検証する。

### [成果の内容]

1. オオムギの出穂期頃に薬剤散布を行うと高い防除効果が得られ、発病を少なく抑えることができる（表1、2）。
2. 出穂期を外すと防除効果は低下し、発病が多くなる。特に2023年産のように発病が多くなる年には顕著である（表1、2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 県内のオオムギ栽培における病害防除技術として活用できる。本研究では、これまで言われていたとおり網斑病の防除適期は出穂期であることを再確認するとともに、散布適期を外すと防除効果が大きく低下することを明らかにした。
2. 網斑病（出穂期頃）と赤かび病の防除適期（蒴殻抽出期）は異なる。麦の生育状況を観察するとともに、最新の気象情報や病害虫発生予察情報を参考にして、両病害に対して計2～3回の防除を的確に行う（図1）。
3. 散布した薬液が圃場の外に飛散しないように、風のない日の散布、障壁作物の利用等、飛散防止のための必要な措置をとる。

### [その他]

研究課題名：佐賀のブランド米麦の生産性を高めるうえで問題となる重要病害虫の省力かつ効果的な防除技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2020～2022年度

研究担当者：井手洋一・古田明子

発表論文：なし

[具体的なデータ]

表1 散布時期がオオムギ網斑病の防除効果に及ぼす影響 (2022年産)<sup>1,2)</sup>

散布時期 <sup>3)</sup>	発病葉割合(%)				
	2月 上旬	3月 下旬	4月 中旬	4月 下旬	
2月	17日(-40)	0	0	1.8	7.2
	25日(-32)	0	0	1.2	6.5
3月	3日(-26)	0.2	0	1.2	3.0
	10日(-19)	0	0	0.5	3.8
	17日(-12)	0.1	0	0.3	6.8
	<b>24日(-5)</b>	0	0	0.3	<b>0.3</b>
	<b>30日(+1)</b>	0	0	0.2	<b>0.3</b>
4月	<b>1日(+3)</b>	0	0	0.2	<b>0.2</b>
	<b>5日(+7)</b>	0.2	0	1.0	<b>1.0</b>
	12日(+14)	0	0	0.5	7.2
無散布	0	0	2.3	13.5	

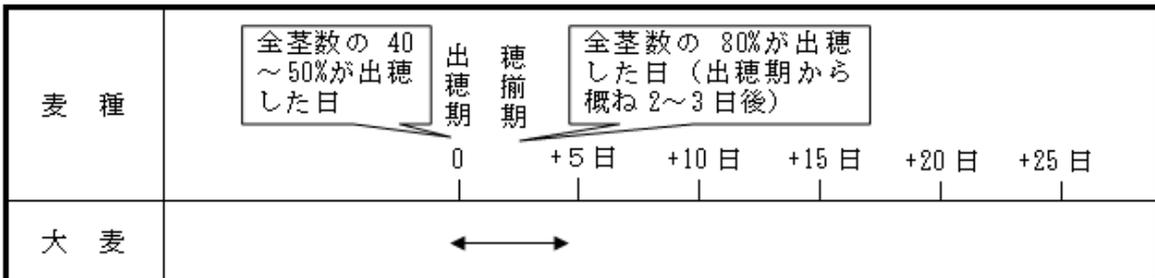
- 1)品種: サチホゴールド(12月3日播種)  
 2)防除効果試験にはチルト乳剤1000倍を用いた  
 3)括弧内の数値は出穂日(3月29日)からの経過日数を示す

表2 散布時期がオオムギ網斑病の防除効果に及ぼす影響 (2023年産)<sup>1,2)</sup>

散布時期 <sup>3)</sup>	発病葉割合(%)				
	2月 中旬	3月 下旬	4月 中旬	4月 下旬	
3日(-26)	0	0	62.5	61.5	
	0	0	48.2	58.7	
3月	15日(-14)	0	0	6.8	49.8
	22日(-7)	0	0	1.7	49.0
<b>29日(0)</b>	0	0	1.0	<b>6.7</b>	
4月	4日(6)	0	0	1.2	27.0
	7日(9)	0	0.2	3.5	20.0
11日(13)	0	0.2	29.5	48.3	
無散布	0	0	61.5	69.8	

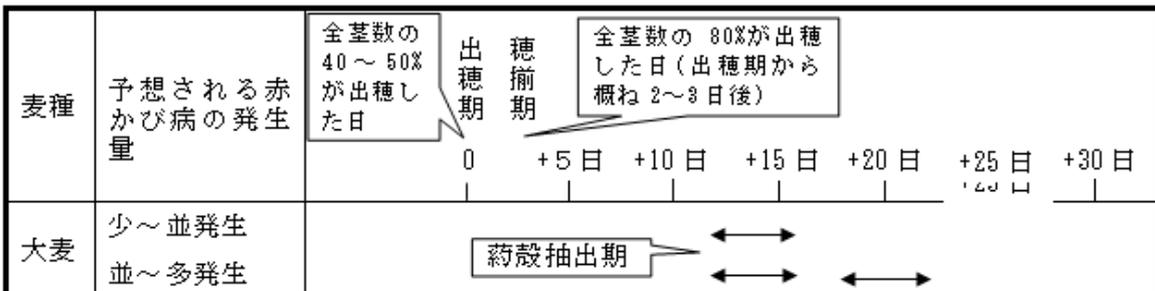
- 1)品種: サチホゴールド(12月1日播種)  
 2)防除効果試験にはチルト乳剤1000倍を用いた  
 3)括弧内の数値は出穂日(3月29日)からの経過日数を示す

網斑病の防除適期



- 注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。  
 注2) 矢印は防除適期を示す。  
 注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

赤かび病の防除適期



- 注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。  
 注2) 大麦の薬殻抽出期とは、50%以上の穂で薬殻が見え始めた日。  
 注3) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用法(収穫前日数)に特に注意する。  
 注4) 矢印は防除適期を示す。

図1 オオムギ網斑病および赤かび病の防除適期 (佐賀県施肥防除のてびきより抜粋)